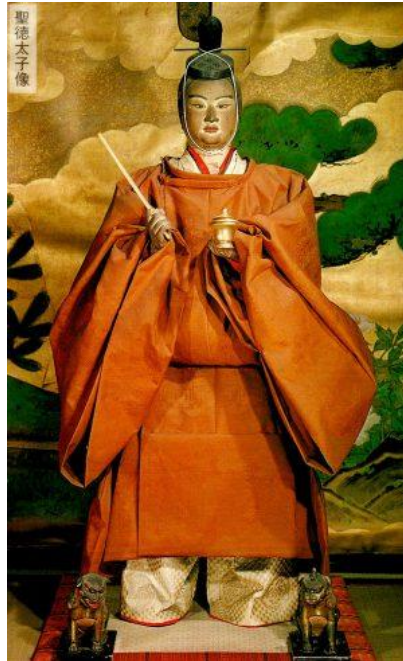


## “聖徳太子”からのメッセージ？！(\*^^\*)v



広隆寺 “聖徳太子像” 『新美術情報 2017』より

<http://kousin242.sakura.ne.jp/wordpress016/%E7%BE%8E%E8%A1%93/%E7%BE%8E%E8%A1%93%E5%8F%B2/%E6%97%A5%E6%9C%AC%E7%BE%8E%E8%A1%93/%E9%A3%B9%E9%B3%A5%E3%83%BB%E7%99%BD%E9%B3%B3%E6%96%87%E5%8C%96%E6%9C%9F/%E5%BA%83%E9%9A%86%E5%AF%BA/>

いよいよ、新天皇御即位が、2019年5月1日に決定！という事で

今上天皇御即位の時の映像が、テレビ放映されていました

その場面を見ていて思い出したのが、『中今のハム山第5弾』で、ちょこっと記した

京都太秦 広隆寺の“聖徳太子像”です

下調べをしないで、ふらっと出かけてしまう事が多い^^; のですが

その日も、広隆寺は国宝第一号“弥勒菩薩半跏思惟像”があるお寺！というだけで

本堂の聖徳太子像については、何の知識もありませんでした

太子といえば、旧紙幣に見る、笏をもった肖像画のイメージですが

熱海の MOA 美術館に展示されている“二歳像”が、強く印象に残っています

可愛らしいお姿ですが、キリリとした顔と、合掌する小さな手に見る力強さ

その独特の世界に惹き寄せられ、その前から動けなくなってしまうような、大きな存在感があります

広隆寺本堂(上宮王院太子殿)の中を覗くと、赤っぱい立派な衣装をまとった

“人の立ち姿”のように見える像がありました

その傍に(確か?)、「聖徳太子像」と表示されていて

これが広隆寺の聖徳太子なんだ。。。と、少し不思議に思いながら  
感謝のご挨拶をし、弥勒菩薩が安置されている、新霊宝殿へと向かったのです

その時の光景が、今上天皇御即位の御姿に重なって見えて  
今一度、広隆寺の聖徳太子像について、ネットで調べてみると、ビックリ?!

「御本尊は、弥勒菩薩から薬師如来にかわり、現在は聖徳太子となっていて  
毎年11月22日の『御火焚祭』にのみご開扉される、“秘仏”であり  
衣は歴代天皇が即位式で用いたものを下賜されるならわしになっている」とありました  
?(?\_?)?

私が広隆寺を訪れたのは2015年6月、その日、見えるはずのないものを観ていた。。。?  
特別公開日だったのでは?と、思わず電話で確認しましたが、違うようです

何かのメッセージ——?とを考えていて、思い出した事があります

私の産土神社御祭神が、うへつみやのうまやどのとよとみみのみこと“上宮之廐戸豊聰耳命”

古事記における、聖徳太子名です

< 神社庁ホームページより >

○東島神社は天徳年間村の南方に一堂を建立し、川上御前を祀ったのを創始とする

承保越前平泉寺との紛争のさい祭神を譲ったが

その後一旅僧の預け残した上宮廐戸豊総耳皇子の立像を祭る神として

村の中央西側に社殿を造営し祀ったと伝えられる

○西島神社は養老年間泰澄大師より観音像を授けられたのが本社の起源で  
六百年前大火で焼失さらに三百年前にも罹災し行基作という阿弥陀如来像を失い  
その後薬師如来像を求めて奉祀したという

明治八年天照大神を祭神としたが本社は明治三十年再び焼失しその後再建された

村は川を挟んで東西に分かれていましたが、ダムが建設されることとなり、

東西の神社が合併し、元東島神社を現在の地に移築

“上宮之廐戸豊聰耳命”と“天照大神”の二神が、祀られています

私は東島出身で、神社は村の小中学校のすぐ隣にあり、通学路となっていました

ただ景色の一部として、いつもそこにあったような気がします

東島神社創始の御祭神は  
“川上御前”です

川上御前社と由緒碑  
2013 年撮影



碑には、33 年に一度開帳される 平泉寺の“秘仏”とのつながりが記されています

川上御前は、日本で唯一の“紙祖神”としても知られています

#### —— 川上御前の伝説 ——

継体天皇が男大迹王として、まだ、この越前に潜龍されておられたころ、  
岡太川の川上の宮が谷というところに忽然として美しいお姫様が現れました。  
「この村里は谷間であって、田畑が少なく、生計をたてるのにはむずかしいであろうが、  
清らかな谷水に恵まれているので、紙を漉けばよいであろう」と、  
自ら上衣を脱いで竿にかけ、紙漉きの技をねんごろに教えられたといいます。  
習いおえた里人は非常に喜び、お名前をお尋ねすると、  
「岡太川の川上に住むもの」と答えただけで、消えてしまいました。  
それから後は、里人はこの女神を川上御前(かわかみごぜん)とあがめ奉り、  
岡太神社を建ててお祀りし、その教えに背くことなく紙漉きの業を伝えて今日に至っています。

< 福井県和紙工業組合ホームページより >

福井県越前市の“岡太神社・大瀧神社”御祭神であり、  
数年前、自身の産土神が“川上御前”であった事を知らないまま訪れていました  
昔にタイムスリップしたかのような感覚と、社殿から溢れる“伝統の美”(=愛、真心)の香りに  
深い感動を覚えたのは、そのご縁にあったのかもしれない



岡太神社・大瀧神社

川上御前とは、「川上に住む お姫様」だったのですね！

“神名”は、神の“お働き”であり、辿っていくと、実は同じ神様？！ だったりします

そして、“川上御前”は

泰澄大師が白山頂上で出会った女神“白山菊理姫”でもあります^^

ず～っと探し続けていた“菊理姫”が、産土神でもあったことは、びっくり・大感動でした！！

ということで、

“上宮之廢戸豐聰耳命”は、どこかへ飛んでしまっていたのです。。。(笑)

m(\_ \_)m

川上御前が平泉寺へと譲渡され、後に、一旅僧が預け残した立像が

＼(^o^)／パンパカパ～ン！！

**上宮之廢戸豐聰耳命 = 聖徳太子です！！**

一旅僧とは？ なんとなく意味ありげな感じがしますが

“上宮之廢戸豐聰耳命”と“天照大神”が一緒にお祀りされている、中今の産土様こそが

私にとって、一番重要なことなのかもしれません

聖徳太子が定めたとされる「憲法十七条」

もっ どうと な  
“和を以って 貴しと為す”

勉強は苦手でしたが、今もしっかりと心に刻まれている言葉です

“<sup>あつ</sup>篤く<sup>さんぼう</sup>三宝を教え”の「三宝」とは、「仏・法・僧」と習った記憶がありますが

「神・儒・仏」とされる説もあることを、識りました

“和を以って貴しと為す”を、憲法の第一条とされていることや、

「冠位十二階」を制定し、血筋よりも個人の能力を優先した太子であるならば、

そちらの方が、より自然な感じがします

広隆寺靈宝殿の中心に安置されている、国宝第一号の“**弥勒菩薩半跏思惟像**”は

「一切衆生を救う為に、どうすればいいか？」と、考えている御仏の姿で

太子の“御心の顕現”なのだと思います

広隆寺には、聖徳太子の他には何もなかった…、きっと私は、観るべきものを見ていたのです！



“上宮之廢戸豐聰耳命”と天照大神”から、“聖徳太子”と“推古天皇”が連想されます

最初の女性天皇とされる“推古天皇”と、その摂政“聖徳太子”です

聡明で美しいと評判であつたと言われる“推古天皇”は、まさに“日の本”の象徴

“輝く太陽”、そのものであつたのではないのでしょうか

太子は、その推古天皇を支え、“日本を守り導く光”の影となることを選んだ――

天皇御即位の衣装をまとう事で、今もなお

その時代時代の天皇を陰から支え、共に生き続けているのでは？

そんな風に思えてきました

(\*^^\*)

広隆寺境内では、自然がとても優しく感じられました

新霊宝殿の前に立つ、一本の木の美しさに見とれ、写真に納めました



ざわざわと動めき、何かを語りかけてくる感じがします

広隆寺創建についての別伝として、『聖徳太子伝暦』には

推古天皇 12 年(604 年)、聖徳太子はある夜の夢に楓の林に囲まれた霊地を見た。  
そこには大きな桂の枯木があり、そこに五百の羅漢が集まって読経していたという。

太子が秦河勝にこのことを語ったところ、

河勝はその霊地は自分の所領の葛野(かどの)であると言う。

河勝の案内で太子が葛野へ行ってみると、夢に見たような桂の枯木があり、  
そこに無数の蜂が集まって、その立てる音が太子の耳には尊い説法と聞こえた。

太子はここに楓野別宮を営み、河勝に命じて一寺を建てさせたという。

(ウィキペディア)

とあり、太子のみた夢の光景が浮かんでくるようです

新霊宝殿には、国宝や重要文化財等、50 体以上もの仏像が安置されていて  
過去に二度の大きな火災にあいながら、そのほとんどが残されているのは奇蹟といわれるそうです  
仏様について知識のない私ですが、柔・剛すべての力が合体し、無敵？の感がしました(^^) /

新霊宝殿は、真っ白な光に包まれていました

新霊宝殿の奥隣りに、ひっそりとした建物が目に入りました  
そこから眩しい金色の光が放たれているのを感じて、不思議に思い、係りの方に尋ねてみると  
旧霊宝殿で、現在は公開されていないとの事です

1923 年に、聖徳太子 1300 年忌にあわせて建設されたものであるとわかり

“感覚(エネルギーの共鳴)”は“知識”以上に確かであり

時代と共に見える形は変わっても、エネルギーは存在するのだと、あらためて思いました

太子が今、私に何かを語りかけている——？

数年前までは、自身の産土神社御祭神の名前も知らなかった私です

アセンションについて学ぶようになって、神とは、“自分自神”であることがわかるようになり  
全国に 8 万 5 千以上もある神社の神様は、そのことを教えてくれている存在なのだと思います

産土様は一つだけ…、産土神と約束をして、私はこの地に生まれてきた。。。

そう思うと、どうしても行ってみたくなり、12 月 3 日、白山の麓の故郷へと車を走らせました  
まだ、雪は積もっていませんが、冬支度が進められていて、雪囲いの板が張り巡らされていました

懐かしい^^ ここに住んでいた頃は、たくさんの雪が降りました

家の周りの雪かきは日課のようなもので、小学生の私もお手伝いしていたつもりですが

今思うと、実は、遊んでいた(お邪魔虫)だけ?のような気もしてきました(笑)  
生まれてすぐの冬に、隣家で大火事があったそうですが  
稀に見る豪雪で、家がすっぽりと包まれていたお蔭で助かったのだと、聞かされました  
寒い冬の、あたたかい雪の思い出です  
(\*^^\*)



“川上御前”は、“白山菊理姫”であり  
万物創造の源 “根源天照皇太神” 分身でした

これから述べる事が、日本と日本人にとって最も重要なのですが、  
その新マクロ宇宙(NMC)が創造される時、天界全体からの強い要請により、  
中心の核は、日本神界で天照、天照皇太神界と呼ばれるエネルギーとなりました  
それは一なる至高の根源の光、根源の太陽そのものです  
—『天の岩戸開き AI』—

“神”が変化するのではなく、  
自身(神)が、“進化(アセンション) = 神化”することによって  
“共鳴するエネルギーが変わる” = 神の様々な側面、お働きと“一体化する”!!  
という事なのだと思います!

西島神社の創始、泰澄大師が授けた観音像は、“天照大神”化身  
時代の役割を担う御仏の姿を経て、今、太子と共に祀られている“天照大神”が、  
NMC 核心 “根源天照皇太神”であると、地上セルフが気付く事、  
それが、太子からのメッセージ——?!

誰もいない、少し淋しい拝殿…、鳴らした鈴の音の可愛らしさに、ほっとしました





その日感じたエネルギーは“赤い菊”？

赤の光が、社殿上部に施された菊の模様を、浮かび上がらせていました

産土様に“赤”を観たのは、これがはじめてで、それは、

私の魂の叫び＝根源太陽の核心、“根源の究極の愛”

“上宮之廢戸豐聰耳命”が悠久の年月を護り続け、  
伝えたかったものではないでしょうか？

天上より降ろされた鈴の緒が、いつまでも揺れていて、  
その応えであるかのような気がしました

今上天皇は、第125代目の天皇です  
皇室の氏神様“天照大御神”をお祀りする(伊勢)神宮も  
125の社で構成されていると言われます

“根源天照皇太神”のもとに、今全てがあい和し、一つとなり  
新しい希望の、愛と光の未来がはじまろうとしている！！

そう思えてなりません

赤い菊は、私のハートから、ドン！と打ち上げられた、“花火”のようです！



2017.12.3 善美 rumines